



Shika Town

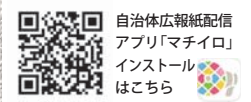
7

2022
(令和4年)

No.203



地域とともに



自治体広報紙配信
アプリ「マチイロ」
インストール
はこちら

【1市2町連携特別表紙】
志賀消防署の皆さん

INDEX

ページ

【特集】羽咋郡市広域圏事務組合 組合消防発足 50 周年	2- 5
新型コロナウイルスワクチン接種 まちかどNews	6- 7 16-17
情報パーク	18-25



未来へつなぐ

羽咋郡市を守る 4つの拠点



志賀町、羽咋市、宝達志水町の1市2町が共同して組織する羽咋郡市広域圏事務組合消防本部。そこでは、365日昼夜を問わず火災や救急に出動し、その予防に努める消防士たちの姿があります。

災害出動は、大きく分けて火災・救急・救助の3つがあります。災害は、いつどこで発生するか予測がつきません。

火災や救急をはじめ、近年頻繁に発生する大規模災害に的確に対応するため、災害対応力を強化しています。「安全・安心なまち」の実現に向けて、消防士は日々厳しい訓練を重ねています。

和衷協同

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部が発足し、本年度50年という節目の年を迎えました。次の10年20年後に向けて、更なる飛躍を図る契機として、軌跡を振り返り、心を同じくして、ともに力を合わせることを意味する「和衷協同」を掲げ、地域とともに栄光の未来へつないでいきます。

羽咋郡市広域圏事務組合 組合消防発足 50周年

軌跡を振り返り 未来へつなぐ



昭和47年4月1日、1消防本部1署3分署、職員47名で羽咋郡市広域圏事務組合消防本部が発足しました。当時、経済・文化の発展や生活の多様化・流動化に加え、小地域における防災機能充実は極めて困難な実情となっていました。1市4町（羽咋市、旧志賀町、旧富来町、旧押水町、旧志雄町）共同の常備体制を確立し、広域的な連携を図ることを目的として発足しました。50年の間、消防署の整備や車両の更新、資機材の充実など消防力の強化が図られてきました。今後とも受け継がれた知識や経験を生かして地域住民の皆さまと手を取り合い、一丸となって歩み続けていきます。



④ 半世紀前の消防ポンプ自動車と警防隊員
⑤ 昭和49年8月の合同庁舎竣工式

防火服の移り変わり

令和元年度からは、国際規格および財団法人日本防災協会の基準をクリアしたものです。



[令和元年] 2019年

2019

平成19年度からは、国際規格に基づいたのものです。上衣とズボンが分かれたタイプとし、熱防護性レベルが格段に上がりました。



[平成19年] 2009年

2009

平成5年度からアルミックスタイプからコート型の布製防火衣となり、耐火性・耐熱性が向上しました。



[平成5年] 1993年

1993



地域とともに

組合消防発足50周年事業

ロゴマーク コンセプト

3つの星は、構成市町である1市2町（志賀町、羽咋市、宝達志水町）を表し、月桂樹は、花言葉にある「栄光」「勝利」から、災害に打ち勝つことを意味します。



キャッチフレーズ 地域とともに未来へつなぐ

消防に対する地域の皆さまのご理解とご協力への感謝の気持ちを込めました。地域に根付いた強い信頼のある消防として、安全・安心なまちづくりの実現に向け努力し続けます。守りたいと思う地域とそこに暮らす圏域住民の皆さまあってこそその歴史です。

組合消防発足50周年



— 地域とともに未来へつなぐ —

腕章 ワッペン

ミッションを果たすべく、あらゆる災害を想定した厳しい訓練に汗を流しています。私たちが突き動かすものは、「住民を守る」という揺るぎない決意と己の限界にチャレンジする強靱な意志です。困難に直面しても自分の可能性を信じて前に進む。職員の一人一人が365日仕事に対する想いを胸に込めて、活動服に腕章として身に付けています。



50周年誌 50年のあゆみ

50周年誌は、レイアウト、文書などすべて職員の手作りで若手職員の写真を多く盛り込んでいます。A4判50ページで半世紀にわたる出来事や時代を振り返る沿革をはじめ、これからの組合消防、消防業務を紹介しています。ぜひ、ご一読ください。

○羽咋消防本部
ホームページ
で掲載中



現在の主な消防車両



消防ポンプ自動車

消火栓や防火水槽といった水利から水を吸い上げ放水する、最も基本的な消防活動を行う車両です。また救急隊の支援にも出動し、救急隊と連携して活動します。



化学(水槽付き)消防ポンプ自動車

水槽約2,000Lを装備しており、他の水利から水を吸い上げることなく放水することが可能です。また、泡消火薬剤を備えた化学消防ポンプ自動車もあり、水では消すことができない油・化学物質の火災にも対応できます。



救助工作車

火災、交通事故、自然災害などで発生する救助活動に対応するための車両でさまざまな救助資機材が積載されているほか、ウインチ、クレーン、照明を使って救助活動を行います。



屈折式はしご付消防自動車

従来のはしご付消防自動車より大幅に小型化され、狭い道路の進入や高所にある障害も避けることができます。また、先端のバスケットからの放水も可能です。



高規格救急自動車

救命処置に必要な資機材を搭載し、応急処置を実施するスペースが確保された車両です。



指揮車

各種の災害現場において指揮・命令の運用を目的とした車両です。

消防士のさまざまな服装

活動服

服は燃えにくい素材で、襟・肩・背中上部には、消防と分かりやすいようにオレンジ色を配色しています。



救急服

明るい灰色の燃えにくい素材で、清潔感を与える色合いです。



救助服

各所に補強が施してあり丈夫で動きやすく、災害現場で目立つようにオレンジ色の燃えにくい素材です。



志賀町消防団の 多岐に渡る活動

消防職員と消防団員との違いを知っていますか？消防職員は消防本部に勤務する「地方公務員」で、消防団員は、別の仕事を持ちながら地域の火災や災害時に現場に駆け付ける地域のボランティア的な存在です。

志賀町の消防団は、16分団と、女性団員、本部役員で構成され、285人が地域の安全を守るため、活動をしています。人口減少・少子高齢化が進む中、若者の団員確保が今後の課題です。火災や災害発生時には、仕事中でも、現場に駆け付け、消防職員とともに消火・救助活動に従事します。

地震や風水害などの自然災害で多数の人数を必要とする大規模災害時の救助・避難誘導・警戒活動でも非常に重要な役割を果たしています。

いざという時に備える各種訓練や、特別警戒活動を通じて、地域の安全、安心の確保に尽力しています。



西増穂分団

羽咋都市消防団 連合訓練大会

羽咋都市消防団員の親睦を図り、日頃の訓練で練磨した消防規律・技能を広く公開し、団員の志気高揚のため実施しています。令和3年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止されましたが、記念すべき第50回大会という節目を迎えました。

今年6月18日(土)、西山台の防災公園に羽咋都市の消防団25分団が集結。ポンプ車操法など日頃の成果を無観客で実施しました。

この大会は、7月30日(土)に開催する県大会の予選も兼ね、西増穂分団が優勝、土田分団が準優勝し、県大会の出場権を獲得しました。

過去にも志賀町消防団は、県大会出場や全国大会出場の経歴が多数あり、高い技術と志を持っています。

また、この大会に合わせて消防定例表彰があり、功労のあった消防団員や分団に、表彰状を授与しました。



土田分団



上熊野分団

令和4年度

消防定例表彰

石川県知事表彰受章者

銀盃を授与する表彰

- | | | |
|---------------------|------|-------|
| 上熊野分団 | 部長 | 松本 大樹 |
| 加茂分団 | 部長 | 岡島 和彦 |
| 加茂分団 | 班長 | 白山 秀和 |
| 西海分団 | 班長 | 有山 啓太 |
| 西海分団 | 団員 | 濱浦 睦宏 |
| 志加浦分団 | 部長 | 山岸 政治 |
| 下甘田分団 | 副分団長 | 柳川 博昭 |
| 高浜分団 | 部長 | 田中 哲也 |
| 西増穂分団 | 分団長 | 佐野 司 |
| 稗造分団 | 班長 | 菅浦 晃宏 |
| 非常勤消防団員の配偶者等に対する感謝状 | | |
| 飯田 理香 | | |
| (東増穂分団) | 分団長 | 飯田 一也 |

公益財団法人石川県消防協会 定例表彰受章者

優良消防団(分団)表彰

加茂分団 西浦分団

功労章表彰

- | | | |
|-------|-----|-------|
| 西海分団 | 分団長 | 坂本 博人 |
| 中甘田分団 | 分団長 | 山口 博史 |
| 西浦分団 | 分団長 | 畑中 邦晃 |

功績章表彰

- | | | |
|-------|-----|-------|
| 団本部 | 副団長 | 奥下 建一 |
| 上熊野分団 | 分団長 | 瀧山 仁志 |
| 稗造分団 | 分団長 | 荒木 勝 |
| 福浦分団 | 分団長 | 神戸 透 |

勤続功労章表彰

- | | | |
|-------|----|-------|
| 加茂分団 | 団員 | 久保進太郎 |
| 熊野分団 | 班長 | 谷内山 誠 |
| 志加浦分団 | 団員 | 表谷 歩 |
| 西増穂分団 | 団員 | 三池裕二朗 |
| 西増穂分団 | 団員 | 奥下 和希 |
| 稗造分団 | 部長 | 丸山真希男 |

羽咋都市消防団連合会定例 表彰受章者

優良消防団(分団)表彰

稗造分団

永年勤続功労章表彰

- | | | |
|-------|----|-------|
| 加茂分団 | 団員 | 久保進太郎 |
| 熊野分団 | 班長 | 谷内山 誠 |
| 志加浦分団 | 団員 | 表谷 歩 |
| 西増穂分団 | 団員 | 三池裕二朗 |
| 西増穂分団 | 団員 | 奥下 和希 |
| 稗造分団 | 部長 | 丸山真希男 |

優良団員表彰

- | | | |
|-------|-----|-------|
| 上熊野分団 | 班長 | 堤合 聖毅 |
| 熊野分団 | 団員 | 雲雀 裕右 |
| 西海分団 | 団員 | 伊藤圭一朗 |
| 下甘田分団 | 団員 | 柳澤 克明 |
| 富来分団 | 団員 | 富澤 慎 |
| 富来分団 | 団員 | 堂下 誠史 |
| 中甘田分団 | 班長 | 藤本 啓介 |
| 中甘田分団 | 班長 | 大森 尚士 |
| 中甘田分団 | 団員 | 上杉 幸司 |
| 西増穂分団 | 団員 | 川田 誠吾 |
| 東増穂分団 | 班長 | 畑山 貴基 |
| 福浦分団 | 分団長 | 神戸 透 |



羽咋郡市広域圏事務組合組合長
小泉 勝 (志賀町長)



50周年を祝して

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部が発足し、本年で50年という大きな節目を迎えました。今日まで羽咋郡市の消防行政の発展のためにご尽力を賜りました関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

近年は、救急需要の増加に加え、火災や事故、台風・豪雨などの自然災害、さらには、能登地方を震源とする地震が多数発生しており、圏域住民の消防に対する期待がますます高まっています。

このような事態に対応するため、消防本部と地域の消防団の連携を密にし、日頃からしっかりと備えておかなければなりません。

この組合消防発足50周年を契機として、今後とも、住民の皆さまの誰もが安全で安心して暮らせるよう、防災力のさらなる充実・強化に努めていくとともに、防災に携わる方々をはじめ、住民の皆さまには、防災に対する理解を一層深めていただきたいと思います。

絶対に火遊びしません！



花火は使用方法やマナーを守って
大人と安全に楽しみましょう♪

子どもの火遊び火災を防ぐ POINT

- ① マッチやライターを子どもが届く所に置かない！
- ② 新しいライターに買い替え、古いライターを処分！
- ③ 子どもだけで火を扱わない！
- ④ 火災の恐ろしさ・取り扱い方法を教える！

5月23日(月)、とき保育園で、幼年消防クラブ結成式を開催しました。町内では初の消防クラブで、園児は災害時の身の守り方や正しい防火知識を身につけ、火災予防活動をします。

園児を代表して年長児が、拍子木や職員手作りのまといを手にし「絶対に火遊びしません」と誓いました。式では、高蔵一弘署長、保育園の宮坂静子所長があいさつし、消防署は園児代表に防火法被と拍子木を贈りました。

今後、防火に向けた七夕飾りの作成や豆まきの活動を行う予定です。

子どもたちの健やかな成長を願いながら、このような活動などを通じて、地域とともに栄光の未来へつなごうとします。

地域とともに 未来へつなぐ

第51回羽咋郡市消防団連合訓練大会

【ポンプ車操法の部】

優勝 西増穂分団

準優勝 土田分団

3位 上熊野分団

敢闘賞 福浦分団

宝達志水町第1分団

羽咋市第2分団

【優秀選手賞】

指揮者 上井 匠 (宝達志水町第1分団)

1番員 坂下 和太 (東増穂分団)

2番員 高井 省吾 (上熊野分団)

3番員 松本 悠 (西海分団)

4番員 山本 誠 (宝達志水町第4分団)



文化財防ぎょ訓練に参加する
大福寺自警団

自主防災組織 (自警団・自衛消防隊)

自主防災組織とは「自分たちの地域は自分たちで守る」といった自主的に結成した組織です。大規模災害が発生した場合、被害の拡大を防ぐためには、県や町では限界があり、地域住民が互いに協力し助け合いながら、火災・地震・風水害の防災活動に取り組んでいきます。

とき保育園 幼年消防クラブ結成

